

学校経営の大綱

〔出雲崎小学校〕



1 教育目標

【教育目標】 だれとでも仲よくする子 すすんで学びとりくむ子

2 重点目標（育てたい児童の姿） 自らとりくむ みんなでつくる

「共生と自立」を目指す本校の教育目標は、今日の社会的要請及び出雲崎町が目指す学校教育の方向と軌を一にする。これを踏まえ、重点目標として「自らとりくむ みんなでつくる」を設定する。「自らとりくむ」とは、「自分に合った学び（個別最適な学び）」である。自ら学び続け、自己を更新していく姿の育成は、「社会の変化に柔軟に対応する力」を培うことに直結する。「みんなでつくる」とは、「多様な人との学び（協働的な学び）」である。他者を尊重し、協働して課題解決に当たる経験の積み重ねが、「未来を切り拓く力」の育成につながる。

3 重点目標達成に向けて

以下のⅠ・Ⅱ・Ⅲを大切にし、グランドデザインに示す学び・心・体の調和のとれた育成を図る。

Ⅰ 温かな人間関係の構築と個に応じた支援で、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感を育てる。

まず、重視することは、自己肯定感の育成である。よいところもあればそうでないところもある自分を受け入れることで、多様な他者を大切にする気持ちも育まれる。日々の学校生活はもちろん、子供たちが将来生きていくためにも大切な感情である。

Ⅱ 多様な人・モノ・コトとの関わりを深める豊かな体験の場を設定することで、他者のために役立つ、認められたという自己有用感を育む。

次に、重視することは、出雲崎の恵まれた教育資源を生かした体験的な学びをとおして自己有用感を醸成することである。自己有用感とは、他者との関わりをとおして育まれる。そこで、地域住民と一体となり、「地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域に学ぶ（地域をフィールドに、地域素材を学び、普遍的な価値をつかむ）」教育を推進する。郷土愛は、自己肯定感の形成にも重要であり、「地域が好き」「人と関わるのが好き」「誰かの役に立つのが好き」という感情はその子の人生を支える心の柱である。

Ⅲ 情報発信や意見交換、教育相談の機会を捉え家庭や地域、関係者と協働して共に育み、共に育つ「共育」を進める。

自己肯定感や自己有用感とは、「愛される」「ほめられる」「認められる」「感謝される」等の経験により、育まれる。つまり、これらの感情は、保護者との関係、教師との関係、友達との関係、地域住民等との関係といった人間関係の中で育っていく。学校、保護者、地域が理念を共有し、同じ方向を向き、喜びを感じるような教育活動を推進していく。その基盤は、多様な子供が安心して活躍するインクルーシブ教育である。

4 家庭との協働ー学校と家庭は共に子供を育てるパートナー

保護者と学校は子育てのベストパートナーでありたい。連絡を密にして、家庭の教育力やPTA活動、活動支援ボランティアなど、保護者と協働して子供を育む。まず、信頼関係を構築し、双方向の連絡が取り合えることを心がける。

子供は相互の関わりの中で育つことを理解いただき、我が子だけではなく、学校のすべての子供の支援者になっていただく。

- ・ 県・町派遣スクールカウンセラー、町派遣特別支援コーディネーターの積極的な活用、子育て支援「きらり」との連携を図り、チーム学校として組織的な対応、実践に努める。

5 地域との協働ー子供は家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く

(1) 子供を真ん中に据えて協働するー横の連携ー

学校は地域のものであり、子供は地域から預かっている地域の宝であることを自覚する。

「地域の子供はみんなの子供」であり、子供は家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨くものである。出雲崎町にはその理想を叶える有難い環境がある。

当地域は、豊かな自然・歴史・文化・産業等に恵まれた教育財産の宝庫である。さらに、人的体制の充実をはじめ、町行政の教育に対する支援は非常に手厚い。一例を挙げれば、町のスクールバス等を最大限に活用し、地域学習を充実させることができる。地域住民は学校に大変協力的である。学校支援地域本部事業の成果により、当校の教育活動に地域の専門家の協力態勢がしっかりできていく。この地域と一体となった学びは、出雲崎小学校の教育の特色であり、今後も一層推進していく。また、平成27年度発足した地域住民による「ほなみが丘倶楽部ー子供たちの思い出づくりを」(旧「ほなみが丘またぎ」)は、保護者有志も加わり、校舎裏手の学びと遊びのフィールド「ほなみが丘」の整備や校地内樹木の伐採等で活躍いただいている。

- ・ 子供の学びを学校・保護者・地域が支え、子供たちの学びが保護者・地域に活力を与えるような教育活動を心がける。
- ・ 子供に気付かせ、感謝の気持ちをもたせ、表現する機会を積極的に設ける。

(2) 子供の育ちや学びを連続、発展させるー縦の連携ー

保育園、こども園、中学校と連携し、一貫した指導体制の下、子供たちが健やかに成長していける環境を整備する。町の教育方針を理解し、保護者と一体となった教育を進める。

- ・ 校園が、子供の実態、指導方法、課題を共通理解する機会を設け、本校の指導に生かす。
- ・ 校園は、共通基盤に立ち、環境変化に対応しづらい子供に対して、きめ細かに対応する。

6 職員に期待すること

(1) 子供を一人の人間として尊重する。

- ・ 子供の姿から謙虚に学び、成長を支え、自らの成長を目指す大人の集団に
- ・ 子供の成長をあきらめない。その姿勢を貫くプロで在れ
- ・ 感じたら動くー感情を行動へ 行動を感動へ

(2) 出雲崎地域を敬う。地域に学び、地域を愛し、感謝の心で働く

(3) 生活と仕事の優先順位を意識し、バランスを保つ

- ・ 「業務の3分類」を踏まえた業務の見直し：チーム出雲崎が一体となって児童、担任を支援
- ・ 学校における措置の推進：放課後の確保、校務DXの推進、適切な時数管理、時間内電話対応
- ・ 健康及び福祉の確保に関する取組：業務管理と健康保持。働きやすさと働きがいの両立

(4) 支え合い高め合う職員集団に

(5) 「共育」の構えで積極的な情報発信と交流。信頼関係を築き、支援の輪を広げる